

説明会や意見交換会の状況

会場	参加者	質問者数				
		推進 意見	見据えた 意見	見直し 意見	その他	
鷹巣	175	28	1	3	21	3
川床	56	16	1	5	4	6
田尻	71	19	2	7	5	5
伊唐	30	10	3	4	2	1
本浦	48	15	4	5	0	6
城川内	94	21	9	5	3	4
平尾	166	20	10	8	0	2
蔵之元	82	29	8	8	3	10
汐見	45	14	5	3	1	5
合計	767	172	43	48	39	42
割合 (%)		33.1	36.9	30.0	-	-

※複数回の発言も1人としてカウントしています

見守ることができる。それに対して、長島高校跡地は暗く、うっそうとしており、見守る人も少なく安全面で不安がある。鷹巣地区に総合グラウンドを開発し、町の整備が行われようとしている。そのような設備も活用できるのではないかと。鷹巣を中心に進めることが最善の方策である。

▽鷹巣中学校の敷地が狭いことについては、グラウンドの山手の方を広げることで改善できる。のびのびとした環境ということについても、かつて500人を超えた生徒数がいた学校なので、さほど窮屈ではない。

れの校舎を増築し、旧両町に1校ずつとした方がよい。新しく1校を新築するよりも経費を抑えることができ、浮いた経費を他のさまざまな部分に使うことで学校生活が活気づく。他校とのライバル意識も大切なことであり、本島地区に1校という統合は、人口推移を見て今後段階的に移行すべきだ。

▽地域は、運動会など学校との関わりが多く、学校があることでまとまっている。愛着のある学校が無くなると地域住民の楽しみが無くなり、地域が空洞化する。地域が子どもたちを育てるが、逆に子どもたちが地域を育てる部分もある。小学校だけは各地域に残してほしい。

子どもたちの自立を促す統合・再編を

長島町教育委員会

平成26年7月15日から11月19日まで、小中学校の統合・再編に関わる説明会、ならびに意見交換会を小学校区ごとに計26回実施し、延べ767人に参加していただきました。

小学校の統合・再編については、少人数、複式学級の指導の良さを認めつつも、子どもたちの将来を見据えたとき、早い段階から、より大きな集団の中で学ぶことは、さまざまな考え方に触れ、お互いの良さを認めながら自分の良さも発揮し、堂々と自分の考えを表現する力が培われていくなど、自立への基礎を培うことを意図しています。

中学校の統合・再編については、卒業後は進学、就職などの理由で町を離れていく子どもたちに、長島町というこの町で一緒に育ったという一体感を持ちつつ、のびのびと学び、互いに切磋琢磨する、

あるいは支え合う気持ちを生身に付けさせたいものです。

統合・再編により学級数が増えることで、教員配置が多くなり、複数の教科で複数の教員が互いに指導力を高めながら、子どもたちの力をいっそう伸ばしていくことができ、小・中学校の連携も今まで以上に緊密になっていきます。

新設中学校の位置については、ゆつたりとした環境で子どもたちがのびのびと学習を展開し、部活動についても活動の幅が広がる、広大な敷地の長島高校跡地を活用したいと考えています。

説明会・意見交換会に参加されたかたからは、前にあげたように子どもを中心に据えたさまざまな角度からの発言がありました。

総括すると、小学校の統合・再編については、もろ手を挙げて賛成とはいえないが、子

どもたちの将来を考えてやむなしという校区が多く、中学校については、地元中学校区に統合してほしいという校区がありました。一方で、その他の校区では、推進委員会から答申を受けて説明してきた長島高校跡地への統合・再編を望むという声が多かったと理解しています。

このようなことを踏まえ、改めて教育委員会としての方針を川添健町長に報告し、小中学校の統合・再編に向けた「長島町立小中学校設置条例」の改正について判断、議会に上程してくださいるよう依頼しました。同時に議会に対しても行政報告会という形で同様に報告し、平成18年の合併以来の大きな懸案事項に対して英断を下されるようお願いしました。

ご多用の中、会場を提供し、長島の子どもたちに寄せる熱い思いを数多く語ってくださいました皆さんに、心よりお礼申し上げます。